



「太陽光オンサイトサービス」により、地域のお客さまに「安心」を提供

株式会社 カノーさま 「太陽光オンサイトサービス」導入の決め手

- 1.発電した電気の自家消費により、電力会社からの電力使用量とトータル電気料金を削減
- 2.省エネルギーと省CO₂を実現
- 3.緊急時の電源を確保

省エネ対策の次の一手として、「太陽光オンサイトサービス」を検討

近年、SDGs(持続可能な開発目標)*への取り組みが叫ばれるようになり、当社も国内外の多様な商品を扱う企業として責任を果たす必要があると感じています。中でも重要な課題と認識しているのが、電力使用量の削減です。日頃から各店舗の店長を通じて従業員に意識づけし、空調温度の適正化や照明のこまめな消灯などを実践してきました。さらに省エネを進めるため、次取るべき方策に悩んでいた時、関西電力さんから提案されたのが、「太陽光発電オンサイトサービス」でした。

※ SDGs：2015年に国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国債指標



代表取締役社長
嘉納英蔵さま

緊急時にも電力を維持し、店舗の営業が続けられるところが導入の決め手

太陽光発電の導入を考えた理由は、再生可能エネルギーによって電力使用量やCO₂排出量を削減することでしたが、**決め手は、電力供給がストップした場合でも電力を維持し、店舗を営業できる**とご提案いただいたからでした。地震や台風でライフラインがストップするといった不測の時にこそ営業を続け、地域の皆さまの不安を解消するために太陽光発電が有効だと考えました。

関西電力さんのサービスが魅力的だった点は、**初期投資やメンテナンスが不要なところ**です。関西電力さんが設備の所有者として**設置から運用、メンテナンスまで徹底してくれるなら、当社にとってもメリットが大きい**と感じました。

太陽光発電と蓄電池を組み合わせるサービスに魅力を感じ、VPPに参画

さらに採用を決めたもう一つの要因が、関西電力さんが進める「**仮想発電所(バーチャルパワープラント：VPP)**」の実証実験への参加とともに、**太陽光発電と蓄電池を組み合わせたサービスをご提案いただいた**ことでした。VPPは、様々なところに点在する太陽光発電や電気自動車などの小さな電源と蓄電池をIoTでつなぎ、あたかも一つの発電所のように機能させる仕組みです。太陽光発電の導入に加えて、VPPに用いられる蓄電池を活用できれば、災害時の電源確保、発電できない時間帯の電力維持も可能になります。また蓄電池に電力を貯め、電力の需給バランスを取ることで、電気料金を削減することも期待できます。何よりVPPの実現が地域の皆さまへの貢献にもつながると考え、VPPへの参加を決めました。

こうして2020年、大阪市生野区にある「食品館アプロ生野小路店」の屋根上に太陽光発電パネルを設置しました。



● 関西電力のVPP(仮想発電所)についてはこちら → <https://kepco.jp/biz/vpp>

前年に比べて電力使用量約10.0%、CO₂排出量約12,000kgも削減し、効果を実感

2020年7月に運用を開始してからわずか**2カ月、電力使用量は昨年に比べて約10.0%低減、CO₂排出量は12,078kgも削減**し、その効果の大きさに驚いています。**電気料金に影響を及ぼす最大電力量も約47kW低減**。関西電力さんのご提案通りに電気料金も削減でき、大変嬉しく思っています。

今後起こるかもしれない災害に備え、地域になくてはならないスーパーマーケットであり続けたい。その一策として、これからも「太陽光発電オンサイトサービス」を活用していきたいと考えています。



株式会社 カノーさま

住所／大阪府大阪市鶴見区浜5-6-29

事業内容／食品を中心としたスーパーマーケットのチェーン

「食品館アプロ」の名で次々と店舗を増やし、現在、50店舗を展開する。地域に根差したスーパーマーケットとして、地域のニーズに応える商品を提供。100店舗、年商1,000億円を中長期目標に掲げ、新しい取り組みにも果敢に挑戦している。

